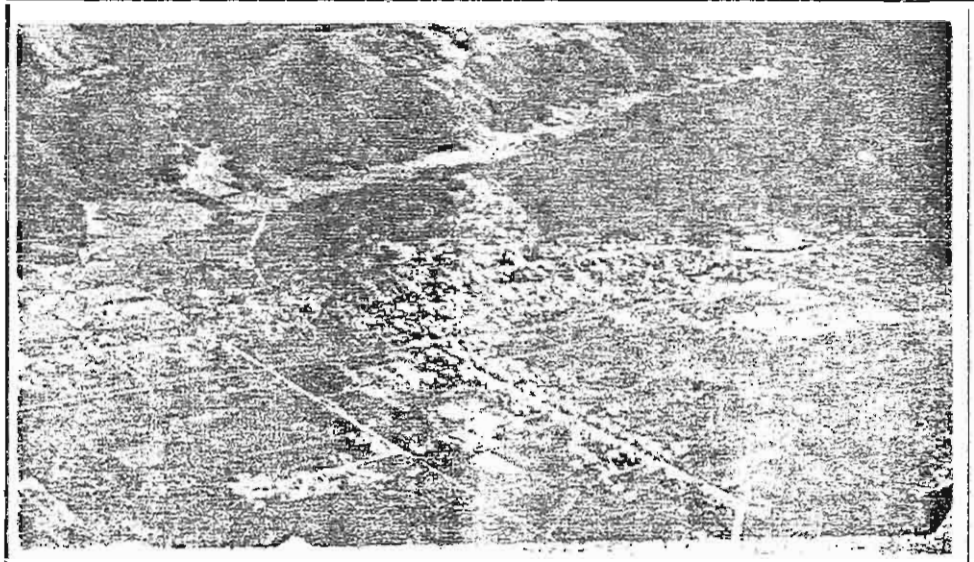
廣報いまかね

発行所　今金町役場
今金町長
発行人　安部義雄
総務課長
編集人　戸沢定勝
今金郵便局
印刷者　内田益男



新年を迎えて

今金町長　安部義雄

町民の皆様新年明けまして御目出度う御座います。

旧年は極めて多事多難な年柄であつて皆様におかれては種々取引や交渉あるいは他人様のためにも御苦労なされた事もあつたでしょうが、除夜の鐘を最後に旧い一年の業は一応円満解決なされ玆に心気一転、皆様お揃い健けんな姿で新春を迎え平和郷建設計画のため清々しい元朝の誓いを新たになされた事を心から御祝い申上げます。

申迄もなく戦後新憲法下私共国民に保障された権利を保有する国民は不断の努力によつて之を保持し決してちん用してはならない。

常に公共の福祉を利用する責任を負う」

と明文されてあります通り日本国民本来の使命を基調に社会の平和を新興し以て町政発展に一層の御協力を賜りたいと存じます。

幸い昨年は永い冷害の体験より稀なる豊穣に恵まれました結果、今後の経営と生活経済において大きく反省より改善へ、他力より自力へ、自主的計画の重要性を認め、多くの得た資料を基盤に愈々実行に移すことこそ新年に与えられた使命であると信じます。

身をつくし心を尽すかひのある世代よあへるは嬉しからずや

小生町政の付託受けまして以来、日夜町民の自由な声を聴き其の責任において微力を盡して来ましたが、更により返つて反省の必要も認め一層の精進を誓うものであります。

御承知の通り町將来の開発の根幹は土木、教育、産業であります。之が充実強化の促進が年次計画の最大の目標であります。

依て町財政力より短期解決は至難でありますが実施見通しについては、開発現況の緩急を勘案継続的実施を認め、土木については、国、道を合せ延長二二五粁橋梁八四橋、延長二千米、更に新路線認定必要のもの一五粁余保有しておりますので、極力国、道の繋り事業を優先、又路線の改良昇格、更に最少限三粁の永久橋架設のため全力を傾したいと存じます。

教育については、小・中学校、分教場を合せ二四校独立管理を必要としますが今次計画に基いて整備の方針であります。

産業については、土地改良を主眼に毎年度一千万円の事業施行を進める方針でありますと共に、高集約の指定を契機に乳量日産一五〇石、年産五万石の増産目標で、第二次北海道綜合開発の線に沿う各種産業と共に、不振地区対策の第年計画へ完成の暁は將来農、畜林、観光迄含む総能力実に乳量一千万石に達成されます。

次に今金市街地は続て千戸数容を目標に都市計画の線に従い前年的美化を基本に道路と排水、火防と衛生の見地より毎年度継続に局部整工を見ているが、更に町民の積極的協力を受け今金駅を中心に、又完成を急いでいる今金橋は道南最大名勝として誇り、この長大橋を勘案に、金郡産業開発に寄与すべきチャンスで、就中北檜山綜合かんばい第三次調査の段階を意義あらしめ町民一致、郷に開発、夕に国家の平和を祈念し年頭の御挨拶に代えます。

今金町人口

（昭和三三、三末日現在）

男　六、三六五人
女　六、五〇五人
計　一二、八七〇人

富田優氏

開拓功労者として知事表彰さる

開道九十年を記念して道では本道の開発に多年貢献した二十四名の人達を知事表彰しました。この表彰の栄に浴した人達の内に本町の富田優氏が開拓功労者として表彰され去る十一月二十三日開催の日札幌市自治会館で盛大に挙げられました。こんど表彰をうけたのは本道五十年以上の人で、その業績が本道の生活と結びついて、独創性をもち、一貫して本道の社会、経済、文化の向上に寄与した人を対象としたもので、開拓の鍬の功労者がえらばれています。次に富田先生の受彰の感想をお伝えいたします。

青春の輝と幸福の足跡

富田優

昨年十一月十四日の北海タイムス紙上に、開道九十年記念に当り開拓功労者二十四の発表がありました。

図らずも其の中に私の名前が出て居るので驚かとばかり其瞬間私の心臓はどきどきと高なりするのを感じました。併し静かに考へて見ますると私は私の歩むべき道を歩いて来たのに過ぎません、何の尊とすべき何物もありませぬ。只五十有余年を過さして来ましたと言ふ事は青春の先代から親友、親戚同情下さいました御陰で終始一貫に吾医者として今日まで生きながらへた爲めに図らずも開拓功労者として大なる光栄に浴したわけであります。

私は明治十五年に岐阜県の片田舎の農家に生れ小学校在学中昼夜漢学の夜学に通ひ小学校卒業後一ケ年農事に従事農業の何物たるかを体得しました。

翌年春十六才の時医学を志しおいを負ふて東都に出で苦学力行医学舎に学び二十二才の秋国家試験に及第して医師となり直に東大医科選科の入学試験を受け合格して入沢先生宮本叔先生に就き個指導を受けました。

明治三十九年八月北海道に移住瀬棚村々医野村氏に雇われ八ケ月間診療に従事翌四十年五月利別村医として今金に開業、以来今日に至り三十四年の歳月を経て今日の日を迎へました。

表彰式に参列して

もろびとの恩によりて

この栄を

うけし我身の

責任の重さを思ふ

受彰の感想と五十年の足跡

今や苦今金町の発展を眺め五十年前の利別村を回顧すれば其に隔世の感があり感慨無量であります。

今金町の斯くの如き発展を来したるは町長佐藤氏と而して佐藤氏の先代先達の一大奮闘と努力によって文化水準に一歩を入れようとする現況であります。

このバトンを受け取った吾人は亦一歩を前進すべき努力奮闘の義務があります。

是れにたえ難時を過して天寿に到達すべきであります最後に全体の無病息災に過ごされん事を祈ります。

受彰の感想

限界集落がえつ後十年東西七里南北十里に渡る原野に教育の農家が点在し当時沢より滝瀬迄では国道はあるが人馬のどうかこうか歩けるに過ぎなかつた時になれば徒歩は全部雨靴に変装、馬のない時は馬の背にて雨滴せらるるにより道路まるで水田の如くだばだばとしてとても人は通れませぬ。

馬より致し方なく当時女の人でも皆乗馬でした。国道へ出るのにも駄馬で一日を要したのであります。

この広漠たる原野を毎日毎夜から晩まで駆け廻り友は発現の如く急患に呼び起され帰れば亦往診と成る時一週間連続に不眠不休で往診に精魂をつくせし事は今思して思へば年の若きであつたとは言え実に重荷であつた。

大正の初期原野農業の爲め馬鹿を来しつつありし爲め農想に再移住する人多さを見、或る時農業会の会議に於て原野農業の非を説き地力を高めよ、家畜を飼育せよ、家畜によつて家族の栄養を高めよとデンマーク農業に就いて約二時間に亘りました。

当時の私

頭にやカンカン山高帽
足にゃ地下足袋雑草はん
胸にゃ銅鑼ブクバかけ
背にゃ懐炉ストル提げ
汝は右手に提灯
左の手には手綱持ち
診察器具は鞍のうに
モタシの鈴はあぶの下
馬鹿かッかッ
ッヤンッヤンと
五道の山道一時間
馬は嘶かん奇壮馬
鞭さよ鞭鞭鞭鞭
春の山梓子花に樽の花
さえずりしげき山の道
何時しか馬も歩を緩め
馬より下りて一ト休み
鞭を下ろした国珠の
足輪放へれば五十半
馬はのどけく笹を喰む
春風たい雪是れ千金
夏川にたばしる荒馬乗り入れば
鼻を鳴らして水を飲む
我は見つむる川底に
故郷一句を物す
"夏川や香魚溯り行く
馬の鼻"
万朔銀に投吟して
鳴雪翁の道に入る。
秋の夜や月は西山に傾きて
蓑虫むく虫すだく
吾家は近く霜降急ぐ
蟋蟀に低の安馬香いなく
多はッマゴに足固め
犬皮の袖なし手袋も
万象寂として夜の道
流るる星を見上げつつ
詩吟高らかに息頃てる
馬子の道分け身にしむる
やがて行き交う鐘と鐘
一鞭あてて陣屋急ぐ
走る心地の楽しさは
言ふに言われぬ心地して
之れが皆きりの春夏秋冬
斯くして馬の上ぞら鐘の上

註

山高帽は村医の目標
馬の鈴は村医が通る合図
ラッパピストルは熊の用心
鉄道開通までの三十年間楽しく嘶れしく馬と共に生き
馬と共に暮して来たのもとれは農家に生れ粗衣粗食に育てられ農業の何物たるやを知り尚且つ子供の時より馬が好きであつた爲めである

私はこうした私の歩むべき道を歩んで来たのに過ぎないのであります。

而して今日まで五十余年の久しき間沢山の子供を教育して今日まで生活を続けさせて貰いた事は親戚知人達の恵まれた事並に皆さんの御庇護御同情の賜であつて今日この大なる光栄に浴したのであります。

謹んで先輩各位の御に対し将又皆さんに対し感謝の意を表する次第であります。

☆　☆　☆　☆　☆

年頭の辞

今金町議會議長　曽我井定一

町民のみなさま、あけましておめでとうございます。多事を重ねた昭和二十三年を静かにおくり、新年を迎えることは、毎年同じことではありながら、今年こそはという新しい希望と又心に期するものがあるような感動たる元気が湧いて来るところに「新年おめでとう」という意義があると思います。

特に本年は皇太子殿下の御婚儀が挙げられることと拝察され、国民斉しくその時期の一日も早やからんことを心から御待ち申上げると共に皇室の益々御繁栄を祝福申上げる次第であります。

又当町多年の懸案である高集酪問題、利別川綜合かんばい問題等一日一日好転しつつありますが、このことは当町百年の大計を賭ける重要な条件でもありますので一日も早く解決しなければならないと思うのであります。

又町民の健康保持上極めて重要な役割をもつ国民健康保険直営診療所もみなさまの御理解により昨年七月発足を見ましたことは、みなさまと共に御同慶のいたりで御座います。

続いて町政におきましては、教育施設の改善、土地改良、産業土木問題等々も相当に整備されつつありますが何と申しましても町の財源とにらみ合せての事でありますので町民各位が充分期待する程のことはできないのであります。

吾々議会に席を設いてるものといたしましては、みなさんの御期待に添うように努力してはおりますが町民各位の心からなる御協力を得なければ徹底その希望に添うことが出来ないのであります。

何卒本年も幸福の年、飛躍の年になりますよう衷心から念願して年頭の御挨拶といたします。

年頭の辞

今金町森林組合長　加藤五郎

新年お目出度うございます。このめでたき昭和三十四年の新春を迎えるに当り私は過ぎし私の過去を思う時、自分の意のままにならざる現在に嗟嘆しさを感ずる者であります。

思えば、十三年前敗戦によつて四ッの島に閉じこめられた日本はあり余る人口乏しい資源破壊しつくされた産業施設をかかえて見て全くの虚脱状態に落ち入つておりました誰れも彼れもが明日の希望の一片すら持てない様な絶滅の生活その八方塞りの日本で急に浮び上つてきたのが我々の住む北海道でした。

北海道、これは日本の面積の二割、そこに埋蔵される豊かな資源もしかも少い人口密度は手を洗う様な日本では確に明日への期待の託せる唯一の新天地であつたのです。尤も北海道がそういう意味で注目されてきたのは古き明治維新で、今日迄開拓に次ぐ開拓を続けて来たのですが遠隔作ら日本の最北端と云う地理的不利もあり開発は思うにまかせないというのが実情でした。然し今はそんな事の云つている時期でない。なる程政府も毎年二百億円にのぼる巨額な開発事業費を注込み道開発は柔々に発展をしておりますが、そこに何かが足りない。

道民は確に損をしているそれは何が原因なのか？この解決は皆様個々にある事を良く御考え下さい。

私の経験より道農民生活恵まれない者と思いますところがこの農民が全国の五〇%占めているのであります。この数からしても全国民所得の五〇%を占めなければならぬ時道民が三〇年度にあげた所得は五七三億円で全道総所得に対し一四・五%になります。

これに対し全国民所得は一七・六%となりつまり道民は全国の農民に較べて農民は全国の農民に較べて道民はこの矛盾した道政を考えねばなりません。農民のみでなく中小企業に於ても同じく道全所収入九〇億の内中小企業が納めるのが四〇億にもかかわらず現在の道政は中小企業対策として一億しか与えてないのであります。

この時三十四年度に行われる選挙により農業又中小企業者は良く考え自分の力で[illegible]

道民は道に損をしている

町民経済を観望し、その発展と幸福を祈つて

今金町農業委員會長　清水健次

新しい気を迎えられまして町民の皆様には希望に輝いて居らるる事と存じます。

過ぐる昭和三十三年は比較的恵まれた天候のもとに本町の基本産業である農業も、水田に於ては今だかつてない約二万俵出荷と云う記録を出し、水田農家はホット一息ついた形であり町の経済に及ぼす影響も極めて大きかつたと存じます。しかし畑作農家に於てはその主軸たる酪農に於ける乳価の大巾な下落、馬鈴薯、雑穀等の価格不振に依つて必ずしも恵まれた経済況ではなかつたと考えられます。

農家の経済は極めて深刻な状態を呈している次第であります。又林業界に於てもパルプの需要不振が大きな原因となつて、深刻な経済不振と言つたまま新らしい年を迎えた訳であります

鉄鋼産業の不振が本町の鋼山関係の経済に影響し又比較的農業の少ないと言われる俸給生活者、勤務者の人々も大きな我が国経済の不況の余波をうけて必ずしも恵まれた経済下にあつたとは言えなかつたと考えている次第であります。また商工業者の人々も一部を除き、必ずしも容易な経済[illegible]

[illegible]

[illegible]

年頭の挨拶

今金町教育委員会
教育長　坪川國雄

皆さんあけましておめでとう御座います。

本年をもちまして終戦以来十四回目の新年を迎えることになりました。此の間教育方針も占領政策から独立国への歩みとともに再転三転致しまして参りましたが十数年の教育行政の経過から省りみて独立国として日本の現状にふさわしい教育内容の確立が検討され、ここに教課内容の改定が行はれることになつたのであります。

今度の教育課程改定の主眼は第一に国際社会において信頼と尊敬をかち得るに足る日本人の育成といふことであります。

日本人としての特質を充分身につけておくことが大切であります。日本が国際社会においていかなる地位にあるか将来いかなる方向に発展すべきか、また日本の民族がいかに発展してきたか、国際政治の中でいかなる役割を果して来たか今後国際的視野に立つて日本がいかに発展すべきかというようなことを理解するためにも、日本の地理や歴史を良く理解する必要があり、また日本のすぐれた文化や古典を理解し身につけておくことが必要であります。

このことは国際社会において尊敬と信頼をかち得る民族でなければなりません決して偏狭な国家主義に陥つてはなりません。世界は密接に結びついています、とくに交通機関飛行機の発達により世界は非常に狭くなり相互に密接に依存して深く結びついています。

排他的な一国のみの繁栄はあり得ません。人間性の尊重を基調とした人道主義に立脚した道徳教育が強く要請されるゆえんであります

第二に生活学習経験学習の名のもとに身辺のことがらを雑然と教へ百科辞典式や知識を詰めこんださらいがあつたのを改めて子どもたちの生活や経験の中から目標や内容を精選して基本的なものにし学習に重点をおいて子供たちのムダな負担をできるだけ軽減するとともに子供たちの発達段階からむずかしいもの（と内容の配列において発展的に系統性を強化して学習能率の向上をはかつたことであります。

なほ昭和三十三年四月から小学校においては教科以外の活動、中学校においては特別教育活動の時間の内年年毎週一時間を特設し新しい「道徳教育」を行ふことになつたのであります。

このことは道徳教育振興に対する社会の要望にこたへ真に世界の人々から敬愛されるような品位ある日本人を育成する趣旨に外なりません。しかし道徳教育の本質からいつて学校のみでよくこれをなし得るものでなく家庭や社会における生活環境の浄化や指導の充実が重要であることはいふまでもありません。教育関係者はもとより、父兄のかたがたまた一般社会の人々の理解と協力によつて学校の道徳教育が今後格段の振興充実することを期待してやまない次第であります。

当町もここ数年間果可院建設の町重点改策のため文教施設も一応飛躍的に比むなき状態でありましたが主年から年次計画により校舎、体育館の増改築が進まれることになつているのであります。

教育界は本年も亦政治的紛争が予想される処が多々ありますが教育は如何なる場合でも政治には絶対中立でなければなりません。

教職員各位の良識ある行動と教育に対する町民各位の御協力を期待してやみません輝しい新年を迎へるに当り一言所感を申し述べて御挨拶といたします。

年頭の挨拶

今金町立國民健康保険
直営診療所
所長　元木賢治

町民の皆様、希望に満ちた新年を迎え心から御祝詞を申し上げます。

昨年七月中旬、町民保健の国保直営診療所が開設され吾々職員はその近代的設備を誇る診療所に勤務を命ぜられ、しかも、豊作と平和の中に町民の皆様と共に新春を迎へる事が出来ましたのは誠に光栄に存ずるものであります。

顧ふに開設の年びも清新する暇もなく頭初より多忙を極め、所員一同の昼夜奮闘の結果により、患者各位に御迷惑をかけつつも大過なく過し得ました事は職員を始め、各関係者の多大なる御協力によるものと此に改めて深謝申し上げる次第であります。

頭初より、かくら繁忙である如きは他の新設病院には、未だ例のない事であり当町の発展のため必ず不可欠であるべき事疑問視されていたが、現在迄に見通しが診察した患者の者、多くの人々が、家業多忙のため、長く放置され、それが慢性、悪化したものであり、己の体に無責任であつたのには、いささか驚かされたものであります

明るい町の建設には総ての町民が健康であるべきは理想でありますが、そのためには疾病の早期発見、早期治療が最良の手段であります又それが最近の国保の普及と共に国家の積極的医療対策でもありますが、未だ都市と僻地町村の内には医療施設普及には、かなりの距離を認めざるを得ない現状であります。それに、附随して衛生思想も同様であり、此れら諸問題が今後実現に努力するつもりで居ります。並に当病の一層の組織力を図り施設の拡張、人員充実と共に理想郷建設を期するものであります。

新年を迎え、当病の部建除を祈り、何多幸を願祈りして御挨拶といたします

年頭所感

今金土地改良区理事長
伊藤綱義

今金土地改良区組合員の皆様、明けましておめでとう御座います。

昨年は春以来の好天に恵まれ耕作者皆様の献身的努力とに依りまして見事大豊作の秋を迎え、供米に於ても、一昨年迄荷の一部倍量貯方懸年内突破の報道と共つて現れ開発以来のレコードを破り町民各位を驚かせた事と存じます。

つい数年前迄、水稲栽培は危険作物として考えられて参りましたが、今日では地方の気象条件に適応せる品種の改良選定に充分留意し土地改良事業の徹底と相俟つて、肥料管理のよろしきを得、年一年と安定作物へと進行しつつある事は力強い限りに存じます。

今や利根川除合かんばい事業に大なる期待を以つて忘て拾万懸米迄今金として西北隠山の宝庫として高くうたわれる日も近い将来と固く信じて疑いません。

水田開発以来苦斗参拾年諸先輩各位の辛苦労を偲かにしのび、一層増産に精進して戴き度いと祈念して止みません。

昭和三十四年新年に当り所懐の一端を申述べて年頭の挨拶と致します

◎　◎　◎

新年を祝して

今金町開拓農業協同組合長

長谷川敬一

……今年こそ、將来に大きな……

……希望を持ち勇を鼓したい……

開拓者の皆さん、明けましておめでとうございます

皆様と共に昭和三十四年の新春を迎えることが出来ましたことは誠に喜びにたえない次第であります。

哲学者の言に「永遠の時の流れには限界がない」と言いますが、矢張り正月は我々にとって何かしら新しいものがあり「新年おめでとう」と云う言葉の中にも万感がこもっている様に思います。

昨年は既存農家にとつてはこの上ない豊穣の秋を迎え実に笑いが止らないことでありましようが、開拓者にとつては笑いどころか再生産さえおぼつかないのが、現状でありました。

本町の開拓地は一般に恵まれない農業環境で、中には人力を以つて克服し得る限界を越えている処もあり実に残念であります。

アメリカの諺の中に「開拓とは、初めに木を食い次に草を喰い、最後に人が喰べられるようになる」ものだという言葉があります、本町の開拓地は木の全部ないところであり、木さえ喰えないのが現状で、一足飛して草を喰べなければならないのが普通であります。

北海道の開拓に冷雪の苦斗史であるといわれておりますが入植した以上、温同経営か主畜経営を目標とする経営以外にないから酪農の基礎を固めるよう常に心がけなければなりません。

更にこれからの農業は、草を喰べる以外生きる方法はないのであります。又営農実績も旺盛なる営農意欲により逐年向上してはいるものの未だまだ低い状態であります、国においても昨年より開拓者の営農安定のため開拓営農振興臨時措置法を制定し、本年度も各種資金の導入、建設工事の実施等真けんに考え当しておりますが未だ根本的な解決には程遠い感がいたします

更に開拓地には数多い営農阻害要因があり一人一人の力では互に共通する問題の解決は出来ないのでありまして共同の力、即ち開拓農協を中心とした組織の力で開拓を取りまく阻害要因である「建設工事の遅延」「用地配分の不適当」「開拓計画の変更」「乳牛の導入」「各種営農資金の導入」等一つ一つ取除いていかなければならないと信じます。この協同精神の消長が今後の開拓盛衰の鍵となるわけであります。

本年も苦難の途を耐え忍んで意気を失わずに努力していただきたいと思ひます今年こそ皆様と共に懸案事項処理に怒命に努力を続け一日も早く開拓地の農業が確立されるようにいたしたいと存じます。

特に本年はいのししの年に当りますので「意をつかたまない」よい意味で営農への猪突猛進を期待いたします。

昭和三十四年の正月に当り開拓農家の御健斗と御多幸を祈念いたし、新年の御挨拶といたします。

※　※　※

※　※　※

迎春所感

今金町酪農業協同組合

組合長

小岩隆一

昭和三十四年の新春を迎へ

それは何処迄も生産面からのみ見た場合に云い得る言葉であつて之を販売処理消流面から考へた時必らずしも変らざる真理と思いますが

きわめて安定した農業であるとはかねてから識者も強く叫び又私共酪農民も其のように認識して来た処でございます。其の考へ方は昔も今も変りなく只時代の推移に伴ひ生産のみに専念すれば良い」とは既に過去の酪農民の考へ方であつて今後は販売処理消流面にも重大なる関心をそそいで行かなければならないと思います。

今日の不況の由つて来る原因は総て販売処理消流面の矛盾、不合理によるものであり、之の打開無くしては制限酪農の将来の安定は望み得ないのであります。

本年は春以来業界の市況は不向の傾向にあり各メーカーは激増する需要を抱へて四苦八苦する有様。そうした騒乱事件は総て乳価にシワ寄され今日見るような悪の事態に立至つて居るのであります。政府に於ましてもこの苦境打開の為め酪農乳品の買上生乳の学童給食振向け酪農品の買上等多額の予算を計上して未だかつて見ざる熱意を以て努力し生産者側又きよう固なる組織を造つて共販態勢の確立に邁進し之等一連の施策がきわめて緩慢乍ら最近漸く其の効を験わし、市況も稍好転の兆を見せて居ります。

努力無き恩恵の恵まれざるは理の当然でございまして、以上の推移に鑑み私共酪農民は内に毅然たる信念を以て酪農の真髄に徹し厳正苛しやくなき自己反省の上に立つて経営の合理化を断行し外協同友愛の精神を以て固き団結のもとに共販態勢を確立し其の努力有つてこそ始めて生産販売処理消流各面に於て酪農の絶対安定が期待出来るものと固く信ずるものでございます。以上一言所感の一端を述べて年頭の御挨拶に代へます。

謹賀新年

今金町役場

町長　安部義雄
助役　柳太一
収入役　吉村太郎

総務課

課長　戸沢定勝
庶務係長　大塚勝三
戸籍係長　木村陵子
経理係長　棚橋精次郎
統計係長　重村栄吉
使丁　亀谷文也
給仕　丁愛宕吉太郎
千葉玲子

税務課

課長　太田篝雄
賦課係長　古畑正勝
徴収係長　吉田英俊
生亀勇
今野佑
今村千万

社会課

課長　石井政吉
国保係長　石井俊直
厚生係長　多田ハツエ
森野庄平
千葉正教

産業課

課長　飯田政市
開拓農林係長　久保田常次
佐々木茂
白山章
技術補　加藤富雄
同　佐々木静子
同　小林緑
同　鈴木育子
看護婦　藤倉康子
書記　稲田武雄
看護婦長　福地サツ
書記補　若山省三
工藤タヨ
八木沼ヒサエ
事務補　平山敬子
技術補　黒川博
委員長　丸山九内
副委員長　太田好雄
三津橋勝蔵
使丁　原田和代
宮内時夫
事務局　吉田辰雄
教育長　坪川国雄
副委員長　鈴木正
加藤五郎
遠藤重太郎
女屋一夫
委員長　相原成男
副委員長　諸戸忠左エ門
中野喜久次郎
河端豊
委員長　庄田胤富
副委員長　細川勘三郎
吉村教宝
鈴木ゆう
中島末義
会長代理　相原成男
委員（選任）　森武雄
村上美三雄
小岩隆一
長谷川敬一
曾我井定一
村上久太郎
畑武雄
原口昌己
会長　清水健次
副会長　広瀬
清水健次
犬塚
委員長　清水正義
委員　瀧沢領助
辻理
相良愛光
委員長　清水健次
副委員長　藤村鶴蔵
田中千代吉
伊藤網義
委員長　元木賢治
所長　浦沢喜一
副所長　柳太一
事務長
レントゲン技師
技師　今野百合子
土屋松子
佐久間ミヤ
理事長　伊藤編義
理事　藤倉久エ門
元村広
平原勝秋
水上英治
林磯次郎
南川松栄
大原忠次郎
本部長　西田丑蔵
常備消防　宮谷吉治
古畑正雄
柳良治
秀賀鈴夫
分団長　佐藤末松
副分団長　遠藤秀吉
分団長　内藤重蔵
副団長　日野太
西田丑蔵
安達乙松
佐藤末松
分団長　沢口正一
副分団長　浪川三太郎
花石分団
分団長　多田貞太郎
副分団長　白山喜三
穂川分団
分団長　中島末義
副分団長　鈴木正
加藤五郎
遠藤重太郎
女屋一夫
委員長　清水正義
委員　瀧沢領助
辻理
相良愛光
委員長　女屋儀八
山崎清太郎
東条利夫
委員長　今金町固定資評
価審査委員会
委員　瀧沢領助
天沼義之進
委員長　飯田政市
局長　浜田邦男
渡辺茂
事務局
田中千代吉
森川久太郎
千太郎
西
伊藤五一
近藤佐一郎
山本鶴雄
原口昌己
畑武雄
村上久太郎
長谷川敬一
曾我井定一
小岩隆一
村上美三雄
森武雄
白山喜三
多田貞太郎
柳良治
秀賀鈴夫
宮谷吉治
古畑正雄
佐藤末松
内藤重蔵
日野太
西田丑蔵
安達乙松
佐藤末松
沢口正一
浪川三太郎
佐藤末松
遠藤秀吉
元村広
平原勝秋
水上英治
林磯次郎
南川松栄
大原忠次郎
教師　今野百合子
土屋松子
佐久間ミヤ
理事長　伊藤編義
理事　藤倉久エ門
元村広
平原勝秋
水上英治
林磯次郎
南川松栄
大原忠次郎
委員長　清水正義
副委員長　藤村鶴蔵
田中千代吉
伊藤網義
委員長　長谷川敬一
委員長　元木賢治
副所長　浦沢喜一
事務長　柳太一
レントゲン技師事務長次長
委員長　清水健次
副委員長　藤村鶴蔵
田中千代吉
伊藤網義
委員長　長谷川敬一
委員長　元木賢治
副所長　浦沢喜一
事務長　柳太一
レントゲン技師事務長次長
委員長　清水健次
副委員長　藤村鶴蔵
田中千代吉
伊藤網義
委員長　長谷川敬一
委員長　元木賢治
副所長　浦沢喜一
事務長　柳太一
レントゲン技師事務長次長
委員長　清水健次
副委員長　藤村鶴蔵
田中千代吉
伊藤網義
委員長　長谷川敬一
委員長　元木賢治
副所長　浦沢喜一
事務長　柳太一
レントゲン技師事務長次長
委員長　清水健次
副委員長　藤村鶴蔵
田中千代吉
伊藤網義
委員長　長谷川敬一
委員長　元木賢治
副所長　浦沢喜一
事務長　柳太一
レントゲン技師事務長次長
委員長　清水健次
副委員長　藤村鶴蔵
田中千代吉
伊藤網義
委員長　長谷川敬一
委員長　元木賢治
副所長　浦沢喜一
事務長　柳太一
レントゲン技師事務長次長
委員長　清水健次
副委員長　藤村鶴蔵
田中千代吉
伊藤網義
委員長　長谷川敬一
委員長　元木賢治
副所長　浦沢喜一
事務長　柳太一
レントゲン技師事務長次長
委員長　清水健次
副委員長　藤村鶴蔵
田中千代吉
伊藤網義
委員長　長谷川敬一
委員長　元木賢治
副所長　浦沢喜一
事務長　柳太一
レントゲン技師事務長次長
委員長　清水健次
副委員長　藤村鶴蔵
田中千代吉
伊藤網義
委員長　長谷川敬一
委員長　元木賢治
副所長　浦沢喜一
事務長　柳太一
レントゲン技師事務長次長
委員長　清水健次
副委員長　藤村鶴蔵
田中千代吉
伊藤網義
委員長　長谷川敬一
委員長　元木賢治
副所長　浦沢喜一
事務長　柳太一
レントゲン技師事務長次長
委員長　清水健次
副委員長　藤村鶴蔵
田中千代吉
伊藤網義
委員長　長谷川敬一
委員長　元木賢治
副所長　浦沢喜一
事務長　柳太一
レントゲン技師事務長次長
委員長　清水健次
副委員長　藤村鶴蔵
田中千代吉
伊藤網義
委員長　長谷川敬一
委員長　元木賢治
副所長　浦沢喜一
事務長　柳太一
レントゲン技師事務長次長
委員長　清水健次
副委員長　藤村鶴蔵
田中千代吉
伊藤網義
委員長　長谷川敬一
委員長　元木賢治
副所長　浦沢喜一
事務長　柳太一
レントゲン技師事務長次長
委員長　清水健次
副委員長　藤村鶴蔵
田中千代吉
伊藤網義
委員長　長谷川敬一
委員長　元木賢治
副所長　浦沢喜一
事務長　柳太一
レントゲン技師事務長次長
委員長　清水健次
副委員長　藤村鶴蔵
田中千代吉
伊藤網義
委員長　長谷川敬一
委員長　元木賢治
副所長　浦沢喜一
事務長　柳太一
レントゲン技師事務長次長
委員長　清水健次
副委員長　藤村鶴蔵
田中千代吉
伊藤網義
委員長　長谷川敬一
委員長　元木賢治
副所長　浦沢喜一
事務長　柳太一
レントゲン技師事務長次長
委員長　清水健次
副委員長　藤村鶴蔵
田中千代吉
伊藤網義
委員長　長谷川敬一
委員長　元木賢治
副所長　浦沢喜一
事務長　柳太一
レントゲン技師事務長次長
委員長　清水健次
副委員長　藤村鶴蔵
田中千代吉
伊藤網義
委員長　長谷川敬一
委員長　元木賢治
副所長　浦沢喜一
事務長　柳太一
レントゲン技師事務長次長
委員長　清水健次
副委員長　藤村鶴蔵
田中千代吉
伊藤網義
委員長　長谷川敬一
委員長　元木賢治
副所長　浦沢喜一
事務長　柳太一
レントゲン技師事務長次長
委員長　清水健次
副委員長　藤村鶴蔵
田中千代吉
伊藤網義
委員長　長谷川敬一
委員長　元木賢治
副所長　浦沢喜一
事務長　柳太一
レントゲン技師事務長次長
委員長　清水健次
副委員長　藤村鶴蔵
田中千代吉
伊藤網義
委員長　長谷川敬一
委員長　元木賢治
副所長　浦沢喜一
事務長　柳太一
レントゲン技師事務長次長
委員長　清水健次
副委員長　藤村鶴蔵
田中千代吉
伊藤網義
委員長　長谷川敬一
委員長　元木賢治
副所長　浦沢喜一
事務長　柳太一
レントゲン技師事務長次長
委員長　清水健次
副委員長　藤村鶴蔵
田中千代吉
伊藤網義
委員長　長谷川敬一
委員長　元木賢治
副所長　浦沢喜一
事務長　柳太一
レントゲン技師事務長次長
委員長　清水健次
副委員長　藤村鶴蔵
田中千代吉
伊藤網義
委員長　長谷川敬一
委員長　元木賢治
副所長　浦沢喜一
事務長　柳太一
レントゲン技師事務長次長
委員長　清水健次
副委員長　藤村鶴蔵
田中千代吉
伊藤網義
委員長　長谷川敬一
委員長　元木賢治
副所長　浦沢喜一
事務長　柳太一
レントゲン技師事務長次長
委員長　清水健次
副委員長　藤村鶴蔵
田中千代吉
伊藤網義
委員長　長谷川敬一
委員長　元木賢治
副所長　浦沢喜一
事務長　柳太一
レントゲン技師事務長次長
委員長　清水健次
副委員長　藤村鶴蔵
田中千代吉
伊藤網義
委員長　長谷川敬一
委員長　元木賢治
副所長　浦沢喜一
事務長　柳太一
レントゲン技師事務長次長
委員長　清水健次
副委員長　藤村鶴蔵
田中千代吉
伊藤網義
委員長　長谷川敬一
委員長　元木賢治
副所長　浦沢喜一
事務長　柳太一
レントゲン技師事務長次長
委員長　清水健次
副委員長　藤村鶴蔵
田中千代吉
伊藤網義
委員長　長谷川敬一
委員長　元木賢治
副所長　浦沢喜一
事務長　柳太一
レントゲン技師事務長次長
委員長　清水健次
副委員長　藤村鶴蔵
田中千代吉
伊藤網義
委員長　長谷川敬一
委員長　元木賢治
副所長　浦沢喜一
事務長　柳太一
レントゲン技師事務長次長
委員長　清水健次
副委員長　藤村鶴蔵
田中千代吉
伊藤網義
委員長　長谷川敬一
委員長　元木賢治
副所長　浦沢喜一
事務長　柳太一
レントゲン技師事務長次長
委員長　清水健次
副委員長　藤村鶴蔵
田中千代吉
伊藤網義
委員長　長谷川敬一
委員長　元木賢治
副所長　浦沢喜一
事務長　柳太一
レントゲン技師事務長次長
委員長　清水健次
副委員長　藤村鶴蔵
田中千代吉
伊藤網義
委員長　長谷川敬一
委員長　元木賢治
副所長　浦沢喜一
事務長　柳太一
レントゲン技師事務長次長
委員長　清水健次
副委員長　藤村鶴蔵
田中千代吉
伊藤網義
委員長　長谷川敬一
委員長　元木賢治
副所長　浦沢喜一
事務長　柳太一
レントゲン技師事務長次長
委員長　清水健次
副委員長　藤村鶴蔵
田中千代吉
伊藤網義
委員長　長谷川敬一
委員長　元木賢治
副所長　浦沢喜一
事務長　柳太一
レントゲン技師事務長次長
委員長　清水健次
副委員長　藤村鶴蔵
田中千代吉
伊藤網義
委員長　長谷川敬一
委員長　元木賢治
副所長　浦沢喜一
事務長　柳太一
レントゲン技師事務長次長
委員長　清水健次
副委員長　藤村鶴蔵
田中千代吉
伊藤網義
委員長　長谷川敬一
委員長　元木賢治
副所長　浦沢喜一
事務長　柳太一
レントゲン技師事務長次長
委員長　清水健次
副委員長　藤村鶴蔵
田中千代吉
伊藤網義
委員長　長谷川敬一
委員長　元木賢治
副所長　浦沢喜一
事務長　柳太一
レントゲン技師事務長次長
委員長　清水健次
副委員長　藤村鶴蔵
田中千代吉
伊藤網義
委員長　長谷川敬一
委員長　元木賢治
副所長　浦沢喜一
事務長　柳太一
レントゲン技師事務長次長
委員長　清水健次
副委員長　藤村鶴蔵
田中千代吉
伊藤網義
委員長　長谷川敬一
委員長　元木賢治
副所長　浦沢喜一
事務長　柳太一
レントゲン技師事務長次長
委員長　清水健次
副委員長　藤村鶴蔵
田中千代吉
伊藤網義
委員長　長谷川敬一
委員長　元木賢治
副所長　浦沢喜一
事務長　柳太一
レントゲン技師事務長次長
委員長　清水健次
副委員長　藤村鶴蔵
田中千代吉
伊藤網義
委員長　長谷川敬一
委員長　元木賢治
副所長　浦沢喜一
事務長　柳太一
レントゲン技師事務長次長

年賀新謹

北檜山土地改良農業協同組合

副会長　松谷与市
同　天羽友馬
安藤勝次
中山源一
大越藤夫
河端豊
代表監事　平川国雄
町河定男
天沼義之進
組合長理事　永山省
理事務理事　河端豊
理事　南川松美
内ケ島俊幸
水上英治
荒川一見
服部才助
三島慎重
土田勝太郎
畑武雄
大越藤夫
幾間善之助
渡辺敏弘
原田米登
大塚徳太郎
三島清松
南川薫
監事　伊藤文吉
中山源一
南川松栄
原口昌己
清水純次
山本民吉
堀元吉雄
橋喜久雄
大越藤夫

今金町酪農業協同組合

組合長理事　小岩隆一
理事　千葉正一
大越藤夫
天沼義之進
中野喜久次郎
鈴木松助
長谷川敬一
鈴木正
渡辺敏弘
原田米登
大塚徳太郎
三島清松
南川薫
代表監事　太田好喜
諸戸忠左ヱ門
監事　井村金蔵
西千太郎
岸本仁太郎
山田春吉
内ケ島俊幸
常股敬二
中島竹市
梅村松次郎
加藤源四郎
遠藤武夫
三島清松

今金町開拓農業協同組合

組合長理事　長谷川敬一
理事　栗谷文男
千葉実
岡田誠章
地場新通
小野明
佐藤久三郎
小池重雄
原田正勝
遠藤長吉
代表監事　天沼義之進
監事　佐野一郎
あきら
森

今金町森林組合

組合長理事　加藤五郎
常務理事　丸山九
内組合長理事
制組合長理事　曽我井定一
理事　村上美三雄
石沢竜作
原口昌己
細川勘三郎
伊藤綱義
伊藤一治
南川薫
山田利一
平川国雄
津田博史
中山源一
管理　武夫
事務局　飛田乙松
鳥住子
羽土正人
森川久太郎
岸本輝義
南川繁
代表監査委員　広沢功
監査委員　渡辺綱太郎
村上久太郎
事務局長　佐藤末吉
高島茂隆
丹田益男
女鹿一夫
梶本広治
折原重親
中島章一
松浦武男
白石光春
河村昭夫
丸山信雄
大和谷正雄
大橋順治
久米豊平
丸山九内

今金町農民同盟

委員長　清水健次
副委員長　近藤佐一郎
書記長　大越藤夫
委員　鷲野庄吉
広田義一
千葉実
新市
淡江
千太郎
伊藤綱義
千太郎
紺谷藤市
西
天沼利一
代表監事　村上久太郎
監事　原口昌己
南川繁
西千太郎
杉林仁太郎
源一郎
佐藤芳吉
元村広
橋喜久夫
伊藤吾一
清水健次
八重樫栄三郎
大越藤夫
仁木盛勝
村本光男
副会長　曽我井定一
清水健次
委員　細川勘三郎
伊藤綱義
加藤五郎
長谷川敬一
河端豊
小岩隆一
佐藤芳吉
伊藤吾一
村本勇
天沼
高沼長蔵
鈴木松助
伊藤一治
津田博史
石川正
小池重雄
新谷定治
城田藤太
山田照二
林磯次郎
畑
町河キノ
鈴木ゆう
相原成男
有賀文平

今金地域農村振興協議会

会長　安部義雄

今金町土地改良推進協議会

会長　安部義雄
副会長　伊藤綱義
薬倉久左ヱ門
中野喜久次郎
相原成男
諸戸忠左ヱ門
大越藤夫
田中千代吉
河端敬一
長谷川
林
元村
安藤勝次
南川薫
事務局長　湯浅久治
事務局主事　小西恒雄
技手　清水義郎
事務補　柴沢愛子
代表監事　平川国雄
町河定男
天沼義之進
監事　細川勘三郎
丹羽
柳助
橋喜久夫

北檜山地区総合かんぱい促進委員会

会長　安部義雄

利別川改修工事促進協議会

会長　安部義雄

公明選挙

政治をきめる あなたの一票

公明選挙とは、文字どおり選挙が公明かつ適正に行われることで、それはとりもなおさず国民の自由に表明した意志が正しく政治に反映されるという目的をもつものであります。

公明選挙運動は、このようなねらいのもとに、国民の間から、心からの希望と熱意によって燃え上ってきたものであります。

わたくしたちは、この際次のようなことを考えたり話し合ったりしてみましょう。

◉ 婦人参政権

戦前わが国で、婦選獲得運動が相当根強く行われたにかかわらず、ついに実現しませんでした。

それがいまでは、有権者の約半数が婦人です。

この貴重な一票ーこれがわたくしたちの政治の方向をきめるーのもつ意味はどんなでしょうか。

◉ 事前運動

明春の地方選挙や参議院議員選挙をひかえ、今からあの手この手の事前運動が行われているとききます。

わたくしたちが、お金の力や情実によって投票するとでも思っているのでしょうか。

◉ 選挙にかかるお金

選挙は、自分たちに代って出て貰う人を選ぶのだから、その人の選挙費用を分担するのは当然のことです。そうすれば当選した人が堕落するようなことはないーという意見がありますがどうでしょうか。

◉ 村八分

数年前岡山県下のある村の高校生が、替玉投票などの不正行為について、新聞に投票したところ、村人から「村八分」にされ、大きな社会問題になったことがあります。

このような不明朗な選挙によって首長や議員が選び出されるとしたら、わたくしたちの住む村や町の政治はどうなるでしょうか。

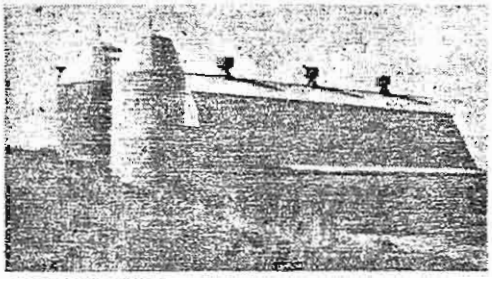
検察審査員候補者が選定されました

毎年一月に選挙人名簿の中から、くじにより検察審査員候補者を選定しておりますが、今年も一月八日にこのくじを行いましたところ次の方々がその候補者に選定されました。

今金　中村フミ
今金　佐藤鶴吉
豊受　中村利治
花石　石沢ミツ
今金　三上マサエ
今金　栗山幸己
八束　田畑チエ子
住吉　伊藤ふセ
日進　五十嵐治男

今金橋渡橋式に三夫婦を表彰

今金町開発の道路元標となる今金長大橋が、昭和三十五年度において完成の予定でありますので町民の方で渡橋式当日現在（三十五年九月の予定）で三夫婦の渡橋隊列を願い併て表彰いたしますから、今から健康に御留意され多くの三夫婦が参加出来ますよう願っております。



季節の風

光陰矢の如しというが、何時のまにか三十三年度も過ぎ三十四年の新しい歳を迎えた。

昨年は心配された冷害凶作もまぬがれ平穏無事な歳であったことを感謝したいと思う。

今年こそはという気持で働いている農家の人たちに何時になったら本当の歓びで歳の暮をおくることができるのだろうか。

だがこのへんで考えてみたいと思う。

こう何時も冷害ばかりを心配しながらの農業経営でよいのだろうか、冷害を克服し、安定した経営の方法はないものなのだろうか。

このことについて家族全部で話し合ったことがあるのだろうか。

冷害ノイローゼがみなさんの気力を抑えているように思う。これが一番おそろしい。

雪の降る一夜、家族みんなで今年の我が家の経営について語り合ってほしい。そして、その中にあるいろいろの問題点について、率直に意見を出し合い、検討したら、きっと一つか二つは新しい農業経営の途が見つかるのではないかと思う。

昨年十二月二十日から一月三十日までが「部落生産活動診断月間」が行われている。診断もまた楽しからずやであるように願ってやまない。